

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-06

学校名・団体名	宮城教育大学附属中学校
HPアドレス	https://fu-cyuu.miyakyo-u.ac.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	社会参画意欲を高める課題解決型学習プログラムの開発
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>将来、宮城県、日本の担い手となる中学生が、復興の推進役になるという期待をもち、その中学生が、現在の復興の状況を適切に把握し課題意識を持ち、その解決のために異なる立場からの視点で解決方法を探り、唯一解がない課題解決に主体的に取り組むための学習の機会を設ける。社会参画に当たり、復興への取組が絶対条件になると思われる被災県における学習をすることが、今後多様な災害に対して対応できる視点を持ち、課題を解決する能力を身に付けていくことができるものと考え、そのための学習プログラムを開発する。</p> <p>被災地を訪問し地域の状況を把握するとともに、語り部や地域の住民の方との交流を通して、情報を収集し、課題解決のための方策を探り、提案する。事前に十分に状況を把握しておくことで、課題が明確になる。そのために新聞、ICT機器を有効に活用し、現在被災地に見られる地域の課題が、今後の宮城県や日本の課題になるという認識を持つことの意義を理解させ、将来の社会参画に係る実践力の高揚及び課題解決を円滑に進めるための学習であることの実感を伴った学習とする。</p>	

はじめに 課題として「東日本大震災後の新しいまち創りに防災の視点を持って積極的にかかわる」こととして、被災地で生活されている方から直接、体験や意見を聞き、得られた情報から解決の方法を見いだす活動とすることにした。1, 2年生の23名でプロジェクトチームを創設して、学習を進めた。

1 活動分担

プロジェクトを創設し、参加者がチームをつくり、担当内容に従って活動を進める。生徒が主体的にチームとしての役割を果たすとともに、協働して課題解決に取り組む学習活動を目指す。

- ①企画(4名)～ 計画立案, 全般全体計画と研修の関連, 研修目的の決定, 要項作成
- ②渉外(4名)～ 外部交渉, 調整講師の依頼・交渉, 交通機関の選定・交渉, 日程調整
- ③運営(3名)～ 研修会進行当日の進行計画とそのため打合せ, 諸連絡内容の確認
- ④広報(4名)～ 広報, 宣伝対象者や時期の確認, ポスター・チラシの作成・配付, マスコミへの対応
- ⑤会計(4名)～ 予算, 支出, 各チームの予算案, 研修に必要な物品や交通費等の会計全般, 執行, 管理
- ⑥記録(4名)～ 活動記録, 報告書作成計画, 活動記録の内容の確認, 記録分担の確認

2 主な活動

①事前研修

- ・期間 平成28年11月～12月
- ・場所 視聴覚室, 図書室等
- ・目的 未来のまちを創る自覚を高め, 訪問地域について事前調査を行う。
- ・概要 地域の現状を新聞, 書籍, インターネット検索等により明らかにした。そして, 課題解決に必要な条件等をまとめ, それらの内で, 当日の調査, 交流会で明らかにできるものを選択した。

②交流研修Ⅰ

- ・期間 平成28年12月17日(土) 7:30～18:30
- ・地域 気仙沼市大島(気仙沼港～大島港はフェリー)
- ・目的 地域の課題解決のため, 被災された地域の方から講話を聞く。
- ・概要 語り部の方からの話を聴き, 事前調査での課題を確認し, 解決のための提案の基になる情報を集めた。課題の解決の具体策を見付けることができた。

③事後研修

- ・期間 平成28年1月～平成29年2月
- ・場所 図書室等
- ・目的 交流研修を振り返り, 未来のまち創りにおける防災について考える。
- ・概要 事前研修, 交流研修Ⅰを振り返り, 提案事項をまとめた。同時に, 報告書を作成する準備を進めた。

④交流研修Ⅱ

- ・日時 平成29年3月5日(日)7:30～17:00
- ・場所 女川町
- ・目的 未来のまちを創る上で防災の視点から, 仮設住宅で生活されている方から体験, 意見を伺い, 質問をして交流を深める。
- ・概要 研修で作成した質問を行い, 交流を深めた。被災地域(女川原子力発電所, 石巻門脇小学校跡等)の見学を行った。

⑤交流研修Ⅲ

- ・日時 平成29年3月13日(月)7:30～17:00
- ・場所 南三陸町
- ・目的 プロジェクトのまとめを行うため, 復興住宅で生活されている方から体験, 意見を伺い, 質問をして交流を深める。
- ・概要 交流研修のまとめとして, 気仙沼市, 女川町, 南三陸町の状況を比較する。仮設住宅から復興住宅へ転居したことによる課題等を明らかにする。被災地域(南三陸総合病院, 商店街, 防災庁舎跡)の見学を行う。

⑥国際交流

- ・日時 平成29年3月下旬(※時差があり日程調整ができず, 夏季休業中の実施に変更。)
- ・場所 視聴覚室
- ・目的 プロジェクトの成果をハワイ大学付属学校にも伝え, 交流を図り, 更に視野を広げる。
- ・概要 発表, 報告書等を英語に直し, ハワイ大学(附属学校)とテレビ会議を行う。国外の視点からこのプロジェクトを見直す機会にもする。

⑦成果発表会

- ・日時 平成29年3月26日(日) 10:00～12:00
- ・場所 仙台市福沢市民センター会議室
- ・目的 プロジェクトの成果を広く市民にも伝え, 交流を図り, 更に視野を広げるとともに活動の評価とする。
- ・概要 発表, 報告書等をもとに発表し, 成果の普及と被災の少ない地域の住民の視点によるプロジェクトの評価等を得る機会とする。次年度以降の改善に生かす。

3 課題解決型学習プログラムについて

(1) 成果

- ① 生徒は、課題を適切に認識し、解決のための事前研修では、新聞、書籍、インターネット検索等による解決のための条件について確認することができた。それらをもとに、被災地訪問における質問事項を吟味した。その際には、質問の相手に対して十分な配慮を行うよう留意することとし、生徒間でも検討し合った。訪問においては、語り部の方や仮設住宅、復興住宅で生活されている方から、被災時の様子、被災直後の生活状況のこと、仮設住宅等での生活の様子、現在の課題、中学生に伝えたいことなどを直接伺うことができたことは、生徒にとって貴重な学習となった。
- ② 事前研修における資料収集では、新聞によることが多く、書籍に関しては適切なものが十分とはいえなかった。必要とする情報を収集することの難しさを学ぶ機会ともなった。
一方、インターネット検索においては、出所が個人によるものが多く、正確な情報として活用してよいかどうか判断に迷うものがあった。このことは、生徒にとって情報の正確な認識の仕方において適切な学習になった。
- ③ 本活動を通して、生徒が主体的、対話的、協働的な学習を行ったといえる。すなわち、課題を認識し、自ら積極的に、プロジェクトのメンバーとチームを組んで、それぞれの担当ごとに活動の内容等を検討しながら意見交流を行った。また、訪問では、語り部の方や生活されている方々との交流において、単なる聞き手としてではなく、課題を共有したいという意識をもって、話し手の気持ちを受け取るという態度で臨むことができた。この成果は、広く市民の皆さんにも伝える機会を持って、発信することの体験をすることができることから、定着がより確実に行われると期待される。

(2) 課題

- ① 生徒の活動時間の確保が十分とはいえなかったため、事前研修、事後研修での深まりが期待通りにならなかった。
- ② 国際交流を予定していたが、時差の関係から、日程の調整が困難となってしまった。授業日の実施が困難となったことから、長期休業中に実施するよう変更となった。
- ③ 成果発表会が年度末となり、報告書の作成に時間的なゆとりがなくなってしまった。成果物の普及としては、印刷物としての発行に加え、ウェブで配信するなどの工夫が必要である。

4 その他

(1) プロジェクトの概要図



(2) 訪問時の写真



気仙沼市大島訪問(12/17) 語り部からの講話



女川町仮設住宅訪問(3/5)自治会長さん他 10名の皆さんと交流

